京都市伏見区におけるアルゼンチンアリの現況について

京都市伏見区では、2008年12月に特定外来生物のアルゼンチンアリの定着が確認（杉山・大西，2009）され、人家への屋内侵入被害が多発していました。そこで、「京都市伏見区アルゼンチンアリ防除対策協議会」が結成され、地域住民、行政、事業所、土地管理者などが協力して2012 年 12 月から、主としてベイト剤による 1 か月に1度の地域一斉防除を開始しました。2016年からは「京都市伏見区アルゼンチンアリ根絶対策協議会」と名を変えながら、アルゼンチンアリの地域からの根絶をめざし、地域一斉の防除を継続し、同時に生息地を含む一帯のアリ類のモニタリング調査を行ってきました。

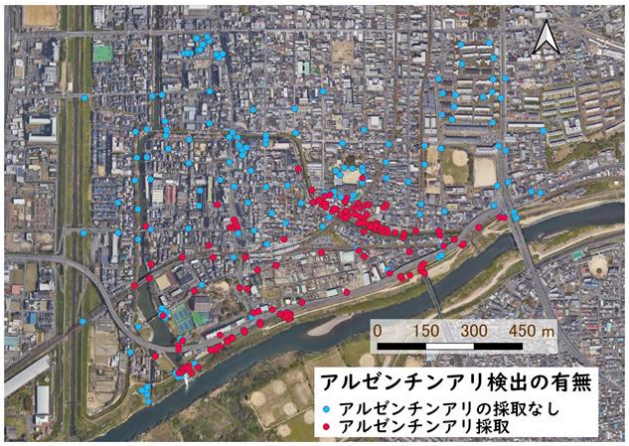
地域一斉防除を開始した2013年頃には、市街地の生息確認地を囲むように設定されたベイト剤散布範囲は約500000m^2、総距離が16km以上でした。年を追って、アルゼンチンアリの生息地の縮小効果は明らかとなり、2021年12月には防除範囲は約45000m^{2}と10分の1以下に縮小、散布作業の総距離も約2.5kmと大幅に縮小されました。

宇治川右岸地域を除く、ヒトの生活の場である市街地側では、2021年 1 月に 1 個体のアルゼンチンアリが発見されて以来、一度も発見されず、2023年1月から、市街地側での薬剤防除の中止を決定するに至りました。

現在も宇治川右岸域（平戸樋門から三栖閘門付近）には、アルゼンチンアリの生息が確認され、地域全体の根絶には至っていません。現在は、右岸域の管理者である淀川河川事務所伏見出張所の協力を得て、防除作業が継続されています。同時に、アルゼンチンアリの市街地での再発見はないか、市街地側への再侵入はないか、在来アリ相の順調な回復はみられているか（10年と長期にわたる薬剤防除の影響がみられるので）、宇治川右岸域では防除効果が確実に発現しているかなどを確認するため、アリ類のモニタリング調査は継続されています。

アルゼンチンアリ分布の変化

防除開始前（2012年1-11月）



2022年1年間の状況（2022年1月～12月）